

# よむよむ

## Spring No.11

R2.3.18(水)

### 洋服ダンスの奥は別世界...

「ナルニア国物語」1~5

C.S.ルイス・作  
河合祥一郎・訳 (角川つばさ文庫)

NDC.933

世界の名作文学が、新しい訳、新しい装丁の

ジュニア文庫になって、そそくと出版されています。

イギリス児童文学の金字塔「ナルニア国シリーズ」今風のさし絵の新訳版で、フレッシュに登場!

岩波少年文庫でなじんだ私のような年配者は、「飛ぶ教室」も「アリス」も「ナルニア」も別作品のように思えて、少々とまどいます。でも、イメージの刷新は大歓迎。ならべて新旧読み比べすると、なおおもしろいです。

翻訳ものあるあるは、「よく意味のわからない文化」。

ナルニア第1巻「ライオンと魔女」では、白い女王がエドモンド少年に食べさせるお菓子がそれです。彼は、あまりのおいしさに女王のとりこになってしまうのですが、このおかし、瀬田貞二さんの旧訳では「プリン」と書かれています。でも描写を見ると、どうやら私たちの知っているプリンではなさそう。どちらかというマシュマロっぽい? ...かなあ。いたいどんなおかしなの? ...

気になってしかたありませんでした。これが新訳では「ターキッシュデライト」と書かれています。



こちらが1985年刊瀬田貞二訳(岩波書店)です。

調べてみると「ターキッシュデライト」は、トルコの甘いおかしで、食感は、ほんたんアメやくるみゆべしに近いらしい。...ふむふむなるほど。旧訳は苦勞の末「プリン」と訳したんだなと納得しました。

ちがいといえばもうひとつ。白い女王のシャベリ方が、旧と新ではまるで別人かというくらいちがってびっくり。たとえば旧「何もつままずに飲むのは味気ないの。アダムのおむすこよ。そちがいちばん好きなのは何か?」新「何も食べないで飲んでばかりというのもつまらないわね。アダムのおむすこさん。なにがいちばん食べたい?」

旧訳では、女王はエドモンドをだまそうとたくらんでいてもなお、尊大な態度をくずれませんが、新訳では、まるでやさしいお姉さんみたいに距離をつめてきます。

いくつかの訳にふれると、楽しめる幅も広がっていいですよ。古い訳は、まわりくどさが、かえて、味わい深かったりして、愛着があるのですが、さらりとなじんでくる新訳も、すてがたい...。ともあれ、4人の兄弟姉妹たちの洋服ダンスの奥の冒険物語をぜひ楽しんでほしいな。

### トコハのハトコ



6年生のみなさん、ご卒業おめでとう!